

山口県内労働者の蓄積疲労と ストレス状況実態調査

山口産業保健総合支援センター
産業保健相談員
奥田昌之、森本宏志、足立明子

【はじめに】

メンタルヘルス対策で使われる 2調査票

職業性ストレス簡易調査票

労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト

平成16年6月

長時間労働 面接指導

平成27年12月

ストレスチェック調査

平成15年調査研究
平成21年調査研究

平成27年調査

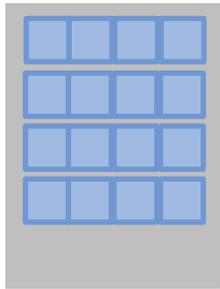
- ① 同時に実施して、現状把握と継続的な把握
- ② マーク式調査票で普及支援

【方法】

事業場調査 と 労働者調査

山口県内
30-999人
3413事業場

無作為
500(475)事業場



回答297事業場

協力28事業場



2457人 労働者

衛生管理者等

・ストレスチェック調査
実施状況 → ②

労働者

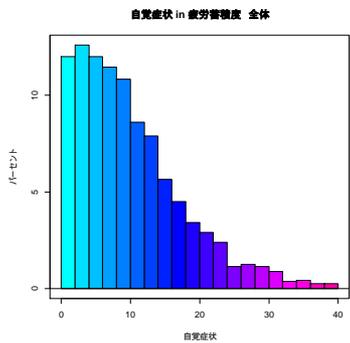
・疲労蓄積度
・職業性ストレス
簡易調査(簡略) → ③

最もあてはまるものを塗りつぶしてください。

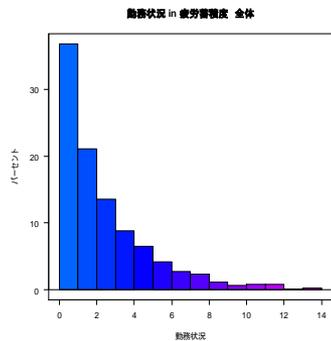
そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
0	0	0	0

④

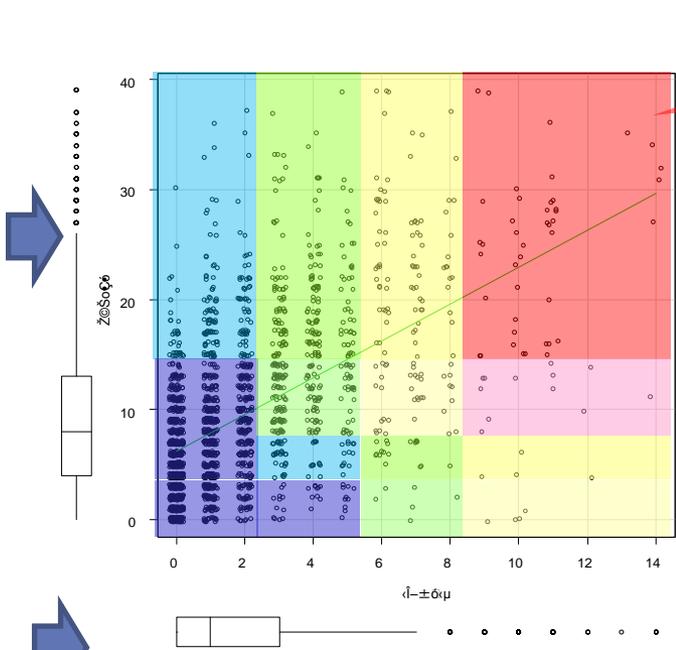
【結果】① 疲労蓄積度



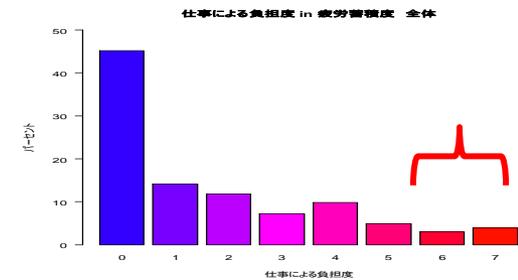
自覚症状



勤務状況



非常に高い



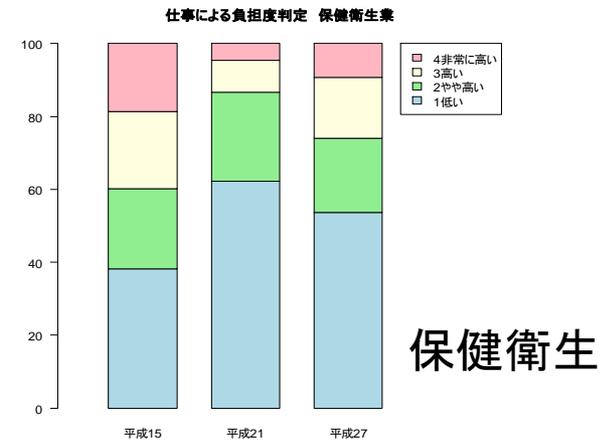
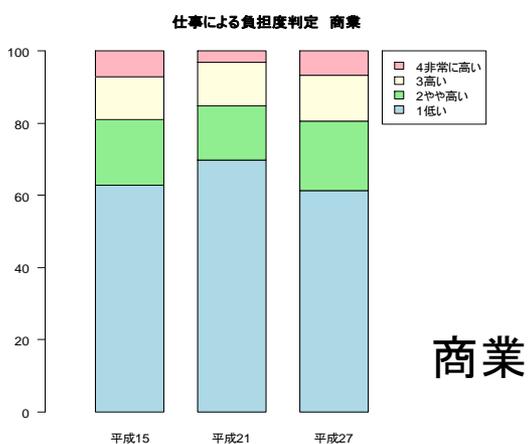
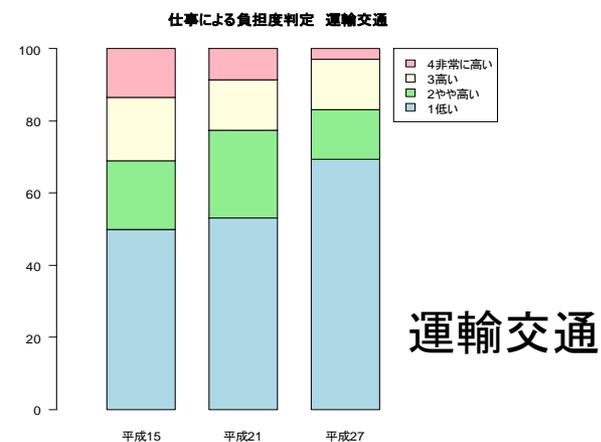
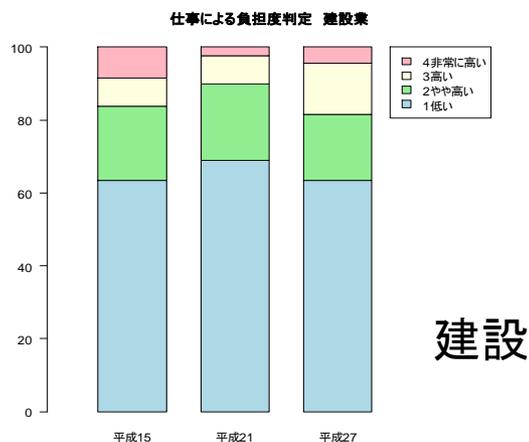
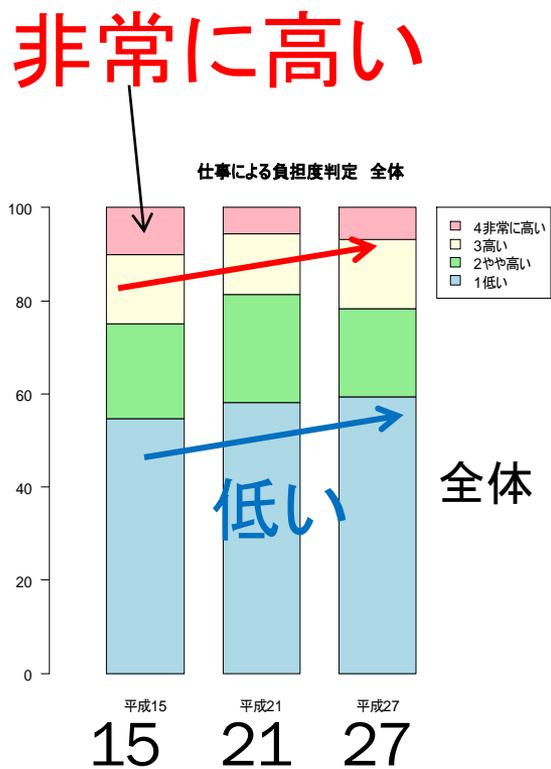
全体3.9% (男3.8%、女4.1%)

多い属性

50歳代、既往症あり、喫煙、労務職、経営管理職、
課長・係長・主任級、交代勤務あり、夜勤あり

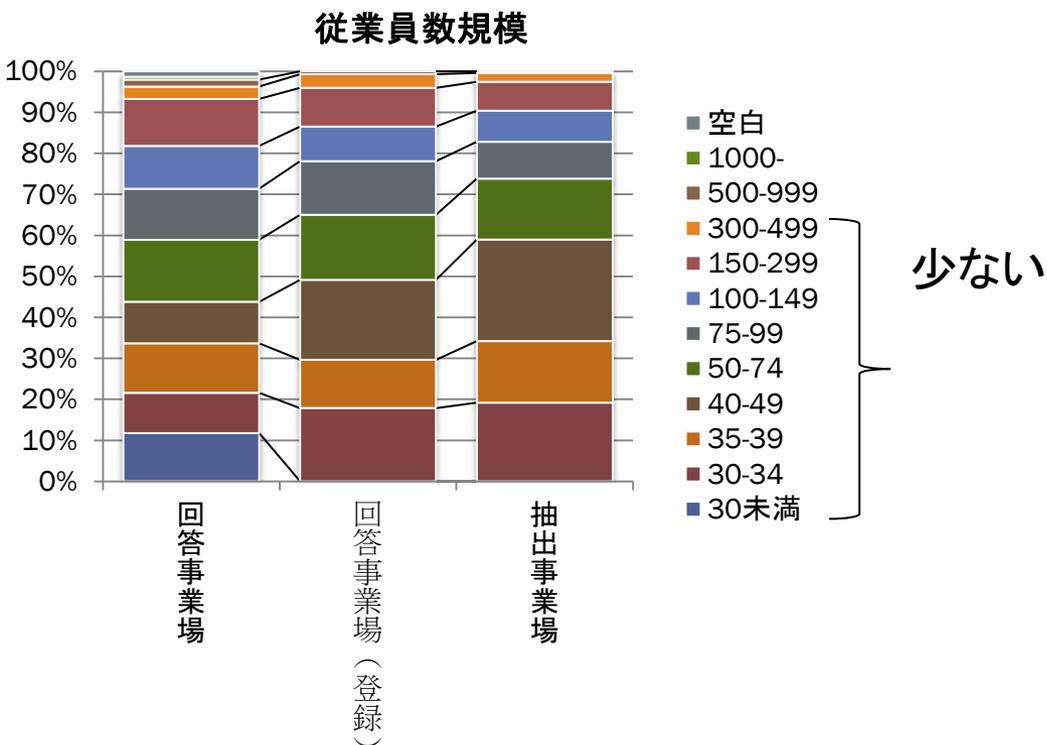
【結果】① 疲労蓄積度

年度比較 平成27年(製造業の協力なし)



【結果】② ストレス調査実施状況

回答297事業場

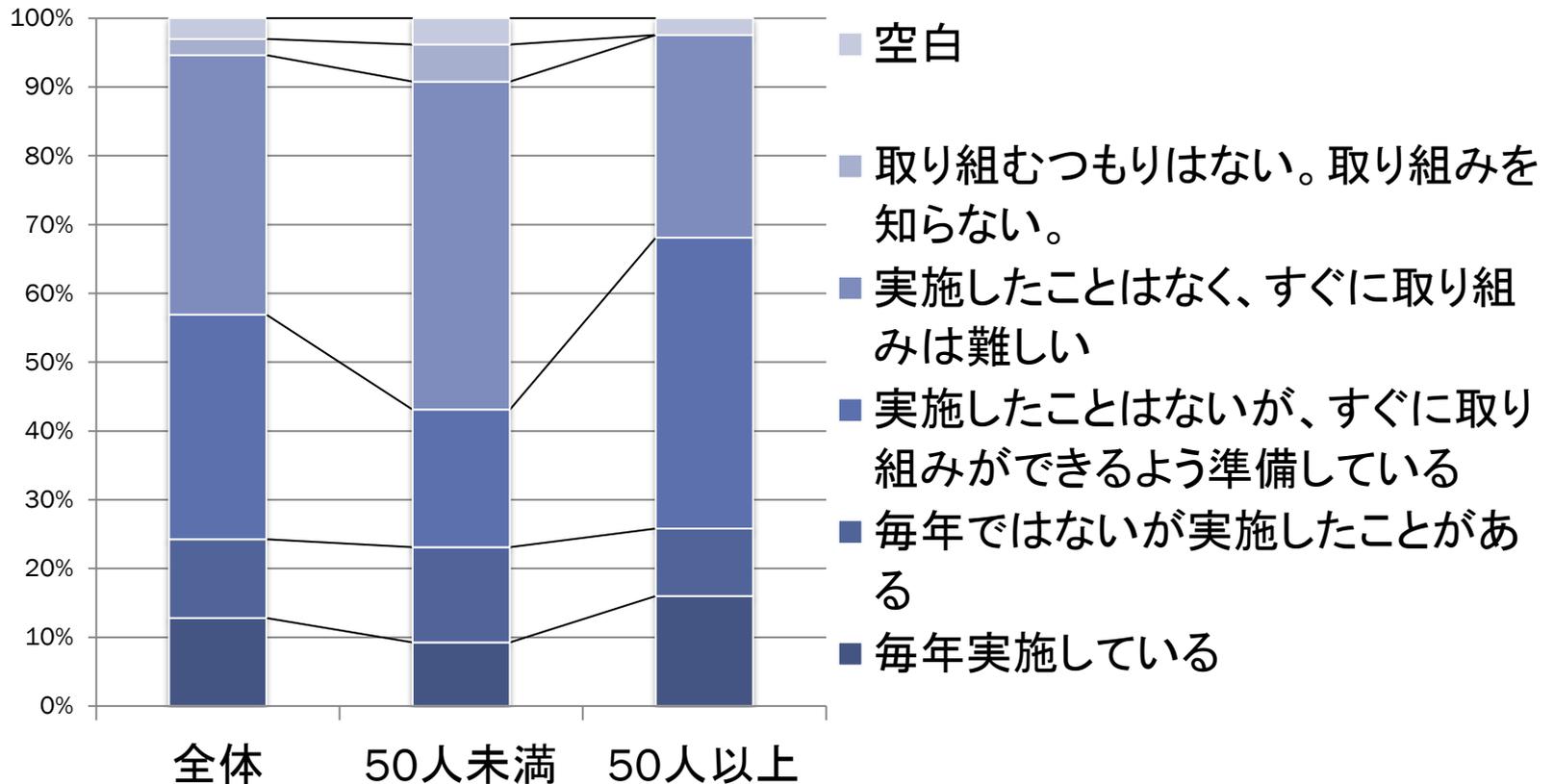


業種

業種	回答 %	登録 %
製造業	20.9	21.5
建設業	4.7	4.0
運輸交通業	8.4	9.1
商業	12.1	14.8
接客娯楽業	3.7	6.1
保健衛生業	8.4	22.9
その他	26.3	6.1

保健衛生業、接客娯楽業、商業が登録よりも回答よりも少ない

【結果】② ストレス調査実施状況



実施が多い

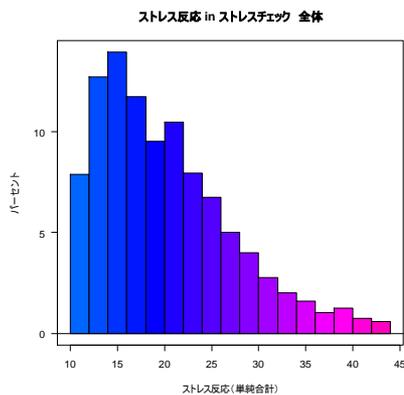
関係会社や協力会社のある
 回答者が衛生管理者
 衛生委員会を毎月1回実施
 産業医のいる
 製造業、建設業、商業

低い

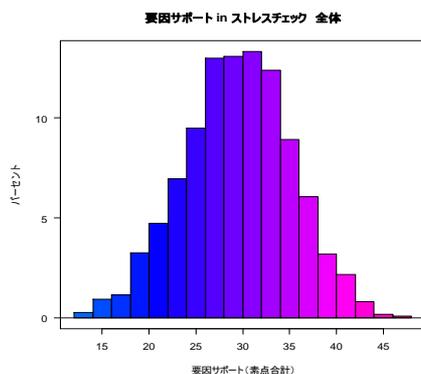
教育研究業、運輸交通業、保健衛生業



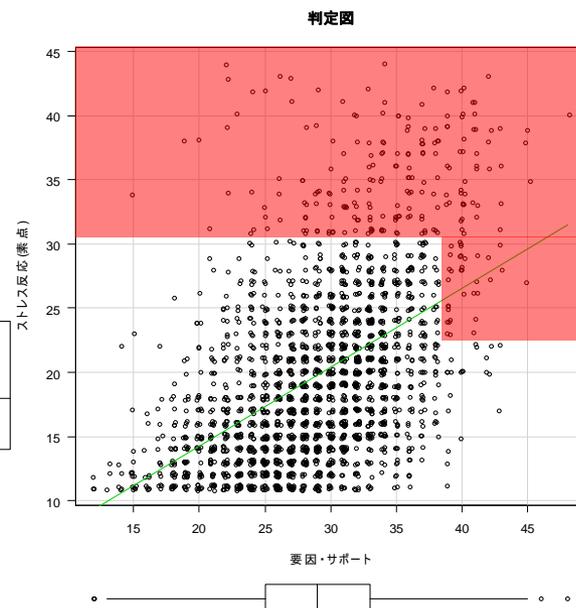
【結果】③ ストレス調査



ストレス反応



要因・サポート



素点の単純合計

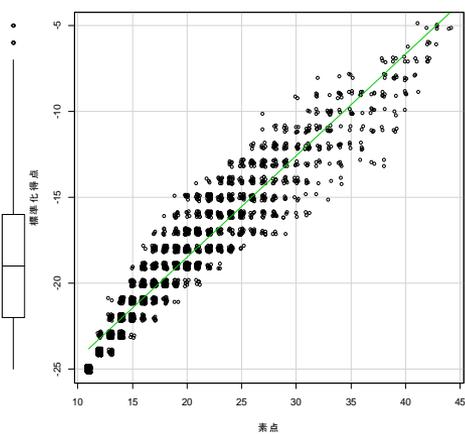
高ストレス者10.4% (男9.6%、女11.4%)

多いのは、若い、既往症あり、未婚、同居家族あり、子供の同居なし、子供年齢が低い、毎日飲酒、喫煙、中学校・高等学校卒業、労務職、経営・管理職、課長・係長・主任級、交代勤務あり

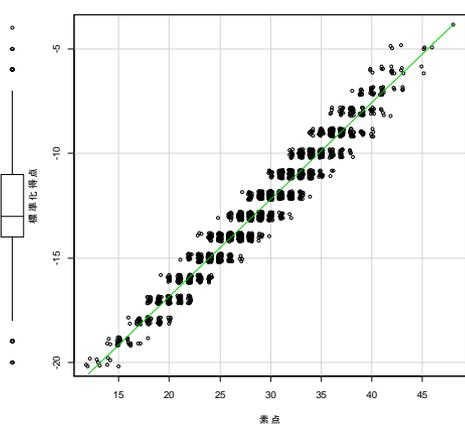
【結果】③ ストレス調査

素点と標準化得点の違い

ストレス反応の素点と標準化得点



要因・サポートの素点と標準化得点



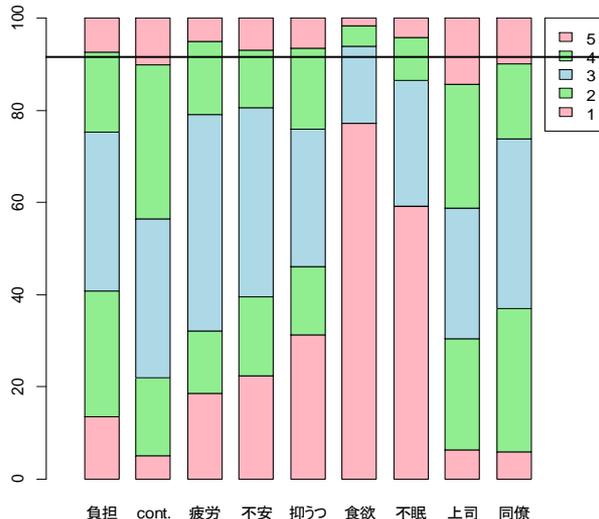
素点

ストレス反応

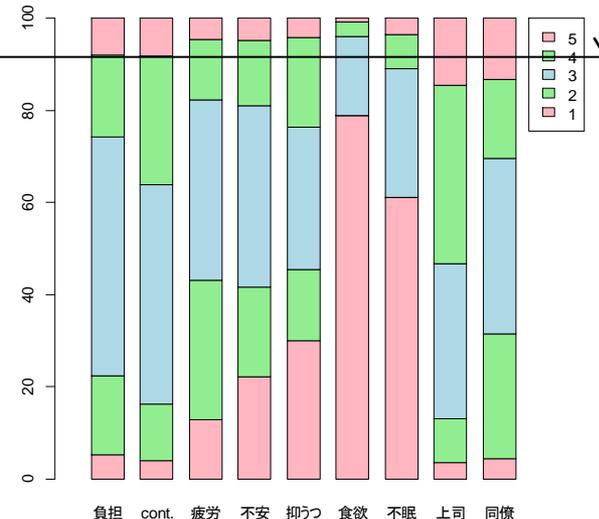
下位尺度ごとの判定割合

偏差値35or65
7%相当

ストレスチェック 標準化得点 男性



ストレスチェック 標準化得点 女性



標準化得点

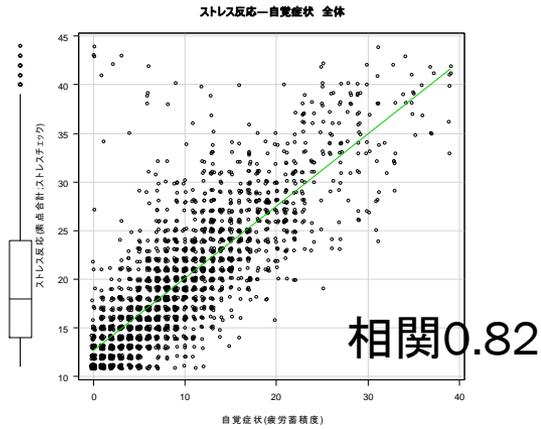
	単純合計		素点換算	
全体	240	10.4%	205	8.9%
男性	117	9.6%	120	9.9%
女性	123	11.4%	85	7.8%

要因・サポート

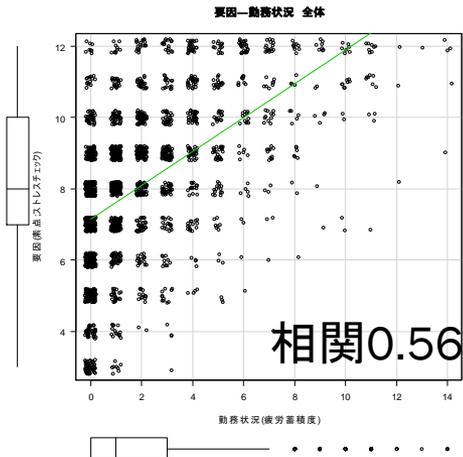
基準を作成した時よりも少ないのでは？

【結果】 ③ ストレスと疲労

ストレス反応と自覚症状



要因と勤務状況



		仕事による負担度判定				
		低い	やや高い	高い	非常に高い	
ストレス チェック の判定	全体					
	非該当	58.14%	17.15%	11.45%	2.96%	
	該当	1.19%	1.92%	3.24%	3.97%	10.4%
	男性					
	非該当	57.88%	16.61%	12.59%	3.34%	
	該当	1.37%	1.71%	3.17%	3.34%	9.6%
女性						
非該当	58.44%	17.76%	10.15%	2.54%		
該当	0.98%	2.15%	3.32%	4.68%	11.4%	

標準化得点 一致率が下がる

スコア化の違い（分布の違いよりも）

- ・自覚症状の高得点を含めない
- ・勤務状況の測定項目と周囲のサポート

【結果】④ マーク式調査票

マーク式調査票 Shared Questionnaire System(久保裕也)を利用。無料。
500人近くでも1時間以内の処理して、実施プログラムに移せる。

記入間違い・読取間違い

欠損値 60歳代以上、同居子どもの年齢が7歳以上、中学校・高等学校卒業、労務職、農林漁業従事者、交代勤務、夜勤あり、8時間未満勤務者

	欠損値の原因	人数	割合
回答数		2455	100.0%
修正可能	訂正書き	37	1.5%
	薄い(読み取りミス)	77	3.1%
修正不可能	空欄	149	6.1%
	二重回答	9	0.4%
解析除外	(空欄あるいは二重回答)	155	6.3% (2.0-18.6%)

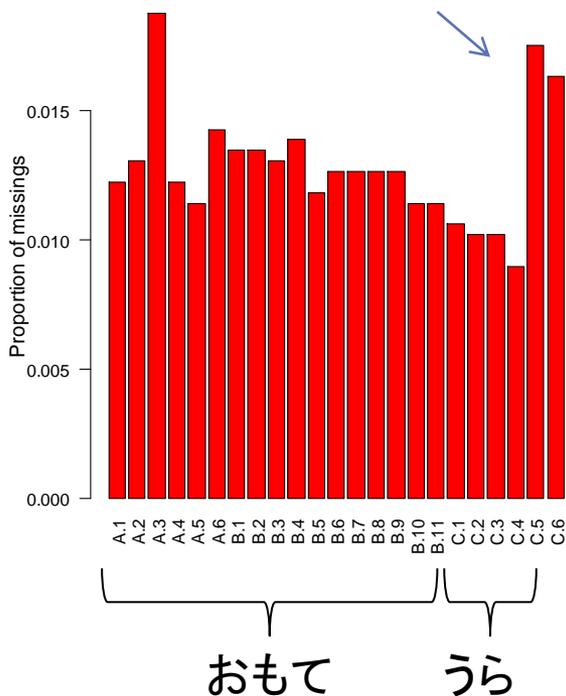
欠損

【結果】④ マーク式調査票

A3「一生懸命働かなければならない」

C5,C6「あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい生きてくれますか？」

高ストレス者



除外	補完		
ペアワイズ	順序ロジスティック	望ましくない値	望ましい値
10.4%	10.3%	11.2%	10.1%
高ストレス者の人数			
欠損1個	240	240	240
欠損2個	5	7	3
欠損3個	3	3	3
欠損4個	1	1	1
欠損5個	0	0	0

欠損6個以上では、望ましくない値では増える。

【まとめ】

- ① 経年的に、労働者の疲労蓄積度は低くなっている。(職業性ストレスも低いかも)
→基準値の読み方
- ② ストレスチェック制度に取り組みやすい事業場もある。そうでない事業場もあるだろう。
→支援へ
- ③ 疲労蓄積度自己診断チェックリストと職業性ストレス簡易調査票はよく似ている。項目の一部とスコア化が異なる。→一部利用可能
- ④ マーク式調査票は簡便。欠損値の処理には注意。
→調査票、方法の公開